

三水会会報

北里大学海洋生命科学部
同窓会会報 第 80 号

令和2年9月発行

編集者 内藤 文隆

発行 三水会(北里大学
海洋生命科学部同窓会)

事務局 〒246-0031 神奈川県
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル
0120-873-135

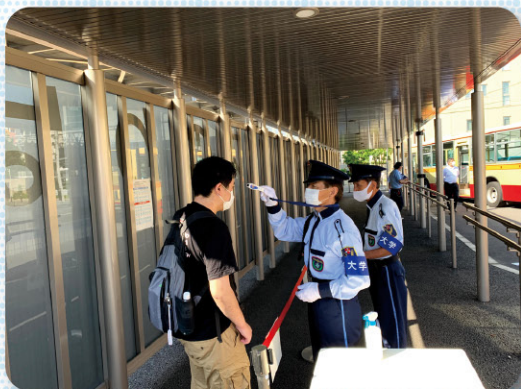
目次／コロナ禍の大学風景	P.1	研究室近況報告	P.5
2020年度三水会定期報告	P.2	〃	P.6
〃	P.3	親睦会報告	P.7
会長挨拶	P.4	お知らせ	P.8



3月24日MB号館を彩る桜



入校制限の掲示



スクールバス乗車前の検温



学部事務室

「2020年度 三水会定期総会報告」

新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度定期総会は書面議決書による開催となりました。

1. 開会 発出日2020年5月11日(月) 三水会代議員に総会資料送付
 2. 定足数確認(三水会規約第3章第10条による代議員)
 3. 議長選出(三水会規約第5章第20条3による議長団)
議長7 F A 柳澤明美氏
議事録署名人 23 F A 北吉直子氏 23 F A 黒岩裕樹氏
 4. 会長挨拶(書面別添え)
 5. 議事
 - (1) 2019年度事業報告および決算について
 - (2) 2019年度監査報告
 - (3) 2020年度事業計画および予算について
 - (4) その他
 6. 閉会
議決日2020年5月23日(土)
- 以上、代議員による議決回答書の結果、提案された議事は原案通り承認されました。

「2019年度事業報告」

1. 会報の発行

同窓生の動向、海洋生命科学部の現状、および各種情報を含む会報を2019年9月と2020年3月の二回発行した。

2. 三水会ホームページの運営管理
会員に対し本会の各種情報を提供した。

3. 会員の現状の把握
全学同窓会と連携し、会員情報の正確性の向上に努めた。

4. 親睦会の開催
・各地区の会員を対象とした親睦会を、北海道地区と関西地区で開催した。

・水産学部4期・5期・6期卒業生を対象とした「水産学部卒業30年の集い」を「白金キャンパス」で開催した。

5. 同期会等の助成
研究室同窓会やクラブOB会等、卒業生の集会費用の一部を助成した。

6. 懇談会の開催
大学教職員および在学生等との懇談会、意見交換を、今年度は開催しなかった。

7. 準会員活動助成
クラブの活動経費の一部を助成した。

8. 就職ガイダンスの開催
・各分野の卒業生を講師に迎

財 産 目 録

2020年3月31日現在

*一般会計(円)

預金等				
みずほ銀行	三ツ境支店	普	1159267	314,032
山梨中央銀行	小沼支店	普	214393	4,583,810
みずほインベスターズ証券	新宿支店	MMF		606,803
現 金				78,065
合 計				5,582,710

*特別会計(円)

(1) 事業積立金

みずほインベスターズ証券	新宿支店	MMF		1,000,000
--------------	------	-----	--	-----------

(2) 大学助成金

ゆうちょ銀行	〇八八	088	普	15963761	150,241
--------	-----	-----	---	----------	---------

※一般会計「準会員活動助成」の対象とならない北里大学や準会員以外の団体等に対する助成を目的とする積立金

監 査 報 告

三水会規約に基づき、提出された収支決算書の各事項について監査を行った結果、その内容は適当なものと認めます。

2020年5月23日

監事 大野 良樹

監事 材津 裕

2019年度収支決算書

2020年3月31日現在

支出の部			収入の部		
科 目	予算額	決算額	科 目	予算額	決算額
1. 事業費	5,800,000	5,332,728	1. 部会助成金	4,690,000	4,690,000
(1) 会報の発行費	2,450,000	2,307,390	2. 会報郵送料補助	778,000	778,000
(2) 三水会HPの運営費	200,000	120,000	3. 前年度繰越金	5,594,834	5,594,834
(3) 会員現況把握費	150,000	60,800	4. 預金利息	166	66
(4) 親睦会の開催費	900,000	1,169,781	5. 雑収入	300,000	455,000
(5) 同期会等助成費	200,000	73,000	6. 講演会開催費	1,300,000	1,300,000
(6) 懇談会費	100,000	0			
(7) 準会員活動助成金	200,000	50,000			
(8) 就職ガイダンスの開催費	250,000	158,000			
(9) 漁船海難遭見育英会寄付	50,000	50,000			
(0) 講演会の開催費	1,300,000	1,343,757			
2. 運営・管理費	2,370,000	1,902,462			
(1) 印刷・通信費	420,000	399,775			
(2) 会議費	700,000	452,569			
(3) 総会費	300,000	261,340			
(4) 事務局費	900,000	757,178			
(5) 慶弔費	50,000	31,600			
3. 予備費	4,493,000				
4. 次年度繰越金		5,582,710			
合 計	12,663,000	12,817,900	合 計	12,663,000	12,817,900

2020年度予算

支出の部		収入の部	
科目	予算額	科目	予算額
1. 事業費	5,150,000	1. 部会助成金	4,809,000
(1) 会報発行費	2,500,000	2. 会報郵送料補助	798,000
(2) 三水会HPの運営費	200,000	3. 前年度繰越金	5,582,710
(3) 会員現況把握費	150,000	4. 預金利息	290
(4) 親睦会開催費	1,000,000	5. 雑収入	300,000
(5) 同期会等助成費	200,000		
(6) 懇談会費	100,000		
(7) 準会員活動助成金	200,000		
(8) 就職ガイダンスの開催費	250,000		
(9) 漁船海難遺児育英会寄付	50,000		
(10) 三水会創立40周年記念事業	500,000		
2. 運営・管理費	2,370,000		
(1) 印刷・通信費	420,000		
(2) 会議費	700,000		
(3) 総会費	300,000		
(4) 事務局費	900,000		
(5) 慶弔費	50,000		
3. 予備費	3,970,000		
合計	11,490,000	合計	11,490,000

え、就職ガイダンスを海洋生命科学部在学を対象に行なった。
 ・終了後、各講師と学生との交流会を開催した。
 9. 漁船海難遺児育英会寄付
 漁船海難等により親を亡くした子弟に、学費の援助を行っている公益財団法人漁船海難遺児育英会に対し、寄付をした。
 10. 講演会の開催
 第57回北里大学同窓会講演会を、白金キャンパスにて三水会の担当で開催した。

『2020年度事業計画』

1. 会報の発行
 同窓生の動向、海洋生命科学部の現状、および各種情報を含む会報を2020年9月と2021年3月の二回発行する。
2. 三水会ホームページの運営管理
 会員に対し本会の各種情報を提供する。
3. 会員の現状の把握
 全学同窓会と連携し、会員情報の正確性の向上に努める。
4. 親睦会の開催
 ・各地区の会員を対象とした親睦会を開催する。

- ・令和元年度卒業祝賀会（仮称）を開催する。
 新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった令和元年度卒業生の卒業祝賀会を、三水会の主催により今秋期頃、白金キャンパスにて開催する。
- ・2021年度「水産学部卒後30年の集い」開催に向けた、検討委員会の設置。
- 5. 同期会等の助成
 研究室同窓会やクラブOB会等、卒業生の集会費用の一部を助成する。
- 6. 懇談会の開催
 大学教職員および在学生等との懇談会を開催し意見交換を行う。
- 7. 準会員活動助成
 クラブの活動経費、準会員活動経費の一部を助成する。
- 8. 就職ガイダンスの開催
 各分野の卒業生を講師に迎え、就職ガイダンスを海洋生命科学部在学を対象に行う。
- 9. 漁船海難遺児育英会寄付
 漁船海難等により親を亡くした子弟に、学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し、寄付を行う。



学食（カウンター）



アクリル板で仕切られた学食のテーブル

10. 三水会創立40周年記念事業
 1980年に発足した三水会は今年創立40年を迎える。それにあたり、記念事業検討委員会を設置し、具体案を策定して実施する。

業を、三水会は支援いたします。会員の皆様にも早晚ご協力をご依頼することに なりますので、その折には是非御協力を お願い申し上げます。

末筆ながら皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

最近の研究室の近況

資源化学研究室 教授 神保 充

私は本学部に着任してすでに24年目に入り、本年度から教授に昇任いたしました。その間、学部名や研究室名が変わる などさまざまな変化がありました。とりわけ大きい変化は、東日本大震災に伴う、大船渡市から相模原市への移転でしょう。これに伴い、志願者数が増加し 偏差値も上がったのは、教育上大きな変化 でした。一方、研究についても変化が ありました。以前は、研究材料であるア メフラシやミドリイソギンチャク等は崎 浜や鬼沢で採集して研究を行っていました。最近でも、オニヒトデやアマクサク ラゲ、サンゴなど様々な無脊椎動物を用 いて研究を行っていますが、相模原では 海が遠いため、現場に行つて生物を採集 することがめつきり減りました。最近の 大きな変化として話さなければいけない のは、今年にはいつてからの新型コロナウイルス の流行に伴う変化でしょう。そ こで今回は、この件について書こうと思 います。

最初の大きな影響は卒業式でした。卒業生は本来ならば、卒業式や謝恩会で着飾り華やかであり、卒業の区切りの大きなイベントで、一昨年度はいままで同様盛大に行っていました(写真1)。しかしご存知のとおり、昨年度の卒業式は中止となってしまいました。海洋生命科学部では、卒業式自体は開催しなかったものの、卒業式の日卒業証書を学部で受

け取ることが出来たので、学生の一部分は、予約した卒業式用の晴れ姿で卒業証書を受け取るとともに、みんなで写真撮っていました。卒業旅行にも行けなかつた学生も多いと思いますので、わずかながらの楽しみになったのではないかなと思います。

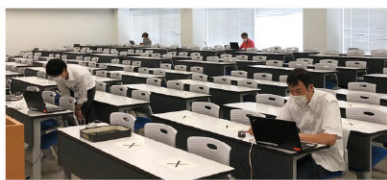
新学期に入つてからは4月7日に緊急事態宣言が発出されてしまったために、卒業式より大きな影響が学校生活に出ました。4月の時点では、学部ではこのよ うな環境下での教育・研究を行う準備が まつたかできておらず、なにも行うことが出来ませんでした。幸いにして、生物の維持管理に関わる登校はできました。5月になってから、個人的にZoomを使う様になり、ミーティングという形で4年生と顔合わせが出来るようになりま した。通常ならば実験の技術修得を兼ね た実験を行つて、今後用いるであろう実 験技術を磨くのですが、大学に来ることが出来ないうちに座学しか教えることが出来ませんでした。誰にとつてもこのよ うな経験は初めてで最初は戸惑いもあつ たと思います。現在では講義などにも利 用され順調に講義も進んでいます。学 生からの直接の反応がないために、うま くいつているのかどうか、不安ではあり ます。その一方、チャットを通じた質問 もあり、学生にとつてのメリットも感じ ています。



平成29年度卒業式
皆さん、着飾って華やかでした。とようやく4年生が大学に 来るのが、 解禁になりま した。しかし 密集状態を避 けるために、 一度に実験す る人数を半分 に制限してお

り、資源化学研究室では4年生は週2日しか来ることが出来ていません。これにより、ようやく研究室での実験が開始され、7月には4年生も一通りの技術を身につけることが出来ました。この状況では、充実感は低いかも知れませんが、研究室らしくなってきたと思います。現在は、私がクラゲやサンゴなどの実験動物の飼育の一部を協力しつつ、4年生の卒業論文研究が始まりました。今後この状態が緩和されて4年生が継続して来られるようになって欲しいものです。

より研究が重要なのは、修士課程の学生です。私は現在、修士課程の1年及び2年の学生を指導しており、特に2年の学生は今年が論文をまとめる学年でもあるので、緊急事態宣言に伴う実験休止期間は大きな損失でした。そのうえ、より大きな問題は研究内容がサンゴの幼生を用いる実験ということでした。最近の中心的な研究はサンゴの幼生を用いて共生機構を解明することです。この研究で用いているサンゴは、5月と6月に産卵し、その後の1-2ヶ月間で研究を行わなければいけないため、綿密な研究計画を前もって立てる必要があります。この期間で行う実験の計画を練るために、4月から5月にかけて大学院生と週1回程度(Zoom経由で)打ち合わせを行って いました。



Zoomを用いたりリモート試験講義室でやっているものの教員と職員がPCに向かっていただけです。6月に大学に 来られる 様になつてか らの実験を スムーズに行 うことが出 来たと思つ ております。 修士課程の 学生の総数 が少ないため

か、人数制限は大学院生には適応されなかつたので、これも幸いしました。

上で述べたような研究には、サンゴの幼生が欠かせませんが、沖繩でしか得ることが出来ません。先ほど述べた通り、このサンプリングは5月と6月です。通例であれば、現地に行つてサンゴの幼生を採集しており、フィールドでの実験も行っていました。しかしながら6月以前は、出張はできるだけ行かないようにと指示されており、受け入れ側の研究所でも受け入れられないと言われていました。幸いにも共同研究者(水産研究・教育機構の山下研究員(水産学部卒業生)および琉球大学の共同研究者 波利井佐紀准教授)からサンゴの幼生を得ることが出来ました。これがないと研究が1年間滞ることになりますので、大変助かりました。

このような困難に直面すると、改めて研究協力者、4年生、修士の学生など皆さんの協力により、なんとか研究室が回っていることが実感できます。今後とも新型コロナウイルスの流行が何回か来るとは思いますが、学部でのクラスタ感染の危険をできるだけ減らすようにしつつ、実習を含む教育・研究が出来るようにがんばっていきたいと思います。

コケムシで振り返る令和1年目の教育研究

沿岸生物学研究室・講師 広瀬 雅人

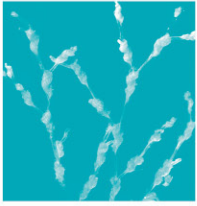
沿岸生物学研究室の広瀬雅人です。一年前に当研究室の近況報告を執筆させていただきましたが、この度、講師昇任のご挨拶を兼ねて、あらためてこの一年の近況をご報告いたします。

世界中で新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が拡大していた2020年4月に、人の少ないMB号館でひっそ

りと講師昇任の辞令をいただきました。普通であれば早速クラス主任や新たな講義を受け持つところですが、ガイダンスや講義も軒並み延期となり、在宅勤務が続いたため、未だに実感がわかずにいます。学生たちも自宅学習が続いているため、私が講師になったことは誰も知らないようです。なんだか、海底で人知れず群体を成長させるコケムシの気分になりました。

コケムシの成長といえば、昨年6月にチュエコで開催された国際コケムシ学会で、コケムシの成長履歴に関する発表を行いました。三陸に生息するサンゴ状のコケムシが形成する炭酸カルシウムの骨格に刻まれた成長線を、ヒトの病気の診断にも利用するCTスキャナーで観察し、群体の成長履歴を明らかにしました。また、成長線にそって削り出した粉を同位体比分析にけることで、その成長線が真の年輪であるかを確認し、年間4mmほど成長していることもわかりました。この成果については、本研究に関わっていた卒業生も共著を含めて昨年末に論文にしました。

この一年間では、他にも共著を含めてコケムシ関連の論文をいくつか出しました。7000mの深海から得られたコケムシや淡水性のオオマリコケムシに関するもの、さらに同位体比分析や次世代シーケンサーを用いた解析まで、コケムシについては何でもやるといった状況です。また、初めて主担当を務めた8月の三陸実習では、巻貝の殻に穿孔するコケムシ(たぶん未記載種)を発見し、学生たちと大いに盛り上がりましました。さらに今年のはじめには、3新種を含むコケムシ4種を記載

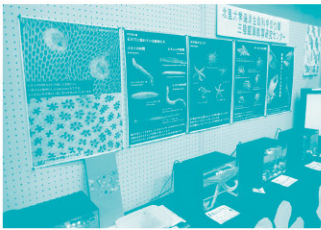


新種として記載したツブナリコケムシ

しました。そのうちの1種は宮城県松島湾の養殖牡蛎にもたくさん付着している種で、カキ小屋でもよく火炙りになっている子たちです。また、そのほかにも昭和天皇が相模湾で採集された標本からも新種を記載しました。さらに、私が着任して間もない2017年の真鶴実習で採集された標本にもとづく新種も記載しました。

この記載論文はいろいろと話題に尽きない内容だったので、満を持してプレスリリースも出したのですが、その矢先にCOVID-19が本格的に猛威を振るい始めたため、この新種のニュースはひっそりとコロナの波に飲まれていきました。人知れず流れ去っていくところもまた、いかにもコケムシらしい運命です。ところが、研究室の卒業生からこのニュースを見たとの連絡がありました。こんなマイナーなニュースをどこで知ったのかと尋ねたところ、情報源はSNSとネットの掲示板でした。ただ、巷はコケムシどころではない状況だったため、掲示板には「このご時世に無駄なこととしてしないでコロナの研究をしろ」などの書き込みも散見されました。突っ込みどころ満載なのはさて置き、コケムシ的には「上等だ、もっとやれ」と言われている気がして、引き続きコケムシの生物学を突き進もうと心に誓いました。

なかなか目の見えないコケムシですが、この一年間でその教育普及活動にも力を注いできました。昨年10月末の大船渡市産業まつりでは、標本やパネルに加えて、コケムシなどの付着



大船渡市産業まつりでの展示

生物に覆われた生きたホタテを水槽展示しました。見慣れた姿とは様相が大きく異なるホタテの姿に、子供から大人まで興味津々の様子でした。翌週の北里祭では、2018年に続いて2年目の研究室展示を実施し、動物班に所属する学生たちが各自の研究テーマについて標本やパネルを交えて来場者に研究紹介をしました。私もコケムシコーナーで標本を片手に一日中喋り続けました。そのまた翌週には、鞆にコケムシたちを忍ばせて札幌に飛び、出張講義で高校生相手にコケムシと分類学について語り尽くしました。こうした活動で少しでもコケムシやマイナーな無脊椎動物に興味をもってくれる人が増えると嬉しいのです。

さて、ここからはもっと最近の出来事として、緊急事態宣言中の近況を報告します。私事ですが、講師に昇任した翌週に、北里大病院で次男が誕生しました。面会もできない中で孤独な出産となりましたが、ひとりでがんばってくれた妻には心から感謝です。こうして、コロナ禍真只中の育児&在宅ワークに突入したわけですが、我が家はまさに「公私」ともに緊急事態でした。日中に机に向かおうとすると、2歳の長男が楽しそうに花屋さんを命ぜられるくらいならよいのですが、現実には机上の論文を床にばら撒かれて、原稿はらくがき帳と化し、挙句の果てに自分は椅子から引きずり下ろされ息子が乗った椅子をくるくる回す係に任命されます。結局、日中は机に向かう時間は皆無でした。新生児の次男についてはお風呂や夜中のミルクを担当していたので、デスクワークはもっぱら夜中から早朝のミルク当番の合間に行いました。

外出もできず子供にとってはつらい期間でしたが、父としては嬉しいことも多々ありました。私は昨年9月から沖縄に家族を残して相模原に単身赴任状態

だったので、妻の産育休のおかげか、はたまた椅子を回し続けた在宅ワーク(?)のおかげか、最近では長男が線虫のようなパパの絵を描いてくれるようになりました。あと、なぜかコケムシの写真を見ると「パパ」と言ってくれます。誤解のないように補足しておきますが、決して私が刷り込んだわけではありません。深まったことを実感しました。

また、丑三つ時に始める在宅ワークで、これまでに取りためたデータでいくつか論文の原稿を書き上げることもできました。今回はコケムシではなく、ウミエラ(刺胞動物門)とホウキムシ(箴虫動物門)とフサカツギ(半索動物門)に関する記載論文です。このうちウミエラの記事論文は、これまた卒業生が卒論として残してくれたものにデータを足して英語で書き直したものになります。気がつけば「コケムシのなんでも屋」から「マイナー無脊椎動物のなんでも屋」になりました。

こうして個人的には嬉しいニュースも沢山ありましたが、大学におけるCOVID-19の影響は深刻です。学生はすべての講義がオンラインとなり、対応に追われました。また、今年度の海洋実習はすべて日帰りとなり、私が主担当の三陸実習や乗船実習も軒並み中止となってしまうました。研究室の方も、学生たちにとっては「沿岸フィールド」の印象が強かったのですが、調査航海を含むフィールドワークが悉く中止となつてしまいました。そのため、この4月から配属となった卒業生や大学院生の中には、研究計画の変更を余儀なくされている学生もいます。

6月になってようやくフィールドに出られると喜んだものの、三陸の調査船ヴェリジャーIIは海藻と付着生物に覆われ、バッテリーも水没し、とにかく大変

2019年度関西地区親睦会報告

23期・増殖学科 北吉 直子

な有様でした。さらに、緊急事態宣言中
まったく掃除ができていなかった越喜来
湾の養殖試験ロープは、繁茂した海藻の
重みで深く沈んでしまっていました。な
んとか船のキヤブスタンを使って巻き上
げ、マキリ片手に無心で海藻を斬り落と
しましたが、COVID-19の影響はこんな
ところにも現れてくるのかと、その深刻
さを再認識させられました。

最後に、研究室の近況についても報
告します。沿岸生物学研究室は昨年から
変わらず難波先生と私の2名体制で、今
年度は学生が19名います。このうち私が
担当している動物班には、修士課程の院
生が4名(1)、4年生が8名の計12名
が在籍しており、研究テーマも、ウミク
ワガタ、ウニ、コケムシ、環境DNA、
腕足動物、触手冠動物の幼生、メイオペ
ントス(特に線虫)、ゴカイ、ワレカラ、
ヒトデ、付着生物と、多岐にわたります
。最近ではZoomを使ったオンライン
のゼミも頻繁に開催し、論文紹介や研究
発表をしています。動物班では基本的に
学生が希望する分類群を研究テーマとし
ているため、「無脊椎のなんでも屋」の
守備範囲もさらに広がってきました。今
後も学生とともに面白いテーマをさがし
て、ますます展開していければと思っ
ています。そんな活発な教育研究活動の再
開に向けても、少しでも早くこのコロナ
禍が終息することを願っています。

今年3月の卒業生については、卒業式
も謝恩会も中止となり、満足に挨拶もで
きぬまま送り出すことになってしまった
ことが心残りです。今はまだ分散登校な
どコロナ対策中なので大学に来ることは
自粛してもらおう必要がありますが、これ
が一段落したら、また是非研究室に顔を
出してくれると嬉しいですね。

2020年2月16日(日) 13時より、
心斎橋「Garden」にて関西地区親
睦会を開催いたしました。

今回は、緒方先生、奥村先生、加戸先
生、高橋先生にご出席いただきました。
総勢25名で美味しくイタリアンを堪能い
たしました!

参加された方々のコメントを紹介いた
します。

緒方先生:「会えてよかった。三陸でや
りたい。」

加戸先生:「関西方面には卒業生が少な
いのでこの機会は貴重、卒業生と語らう
喜びをもらっています。」

入試でお忙しい中、参加して頂いた奥
村先生、高橋先生は、とても楽しそうに
されておられ、輝くような笑顔で帰っ
て行かれました。

そして参加した卒業生からは、

2期生:「4名の先生方を迎え、盛大な
懇親会となりました。昔の三陸の話も今
の学部の話も聞かせていただき、楽し
い会です。」

5期生:「今日は楽しい会でした!」

7期生:「同期が関東中心なのでなかな
か会えないのですが、親睦会を毎回、楽
しみにしています。」

7期生:「離島で、夏休みにやりたい!」

7期生:「今回は先生4名参加頂き、豪
華な懇親会になりました。先生方、あり
がとございます。」

9期生:「あの三陸の日々を話す仲間が
いて、あの日にもどれたら、戻りたい。」

10期生:「8年ぶりに参加!学生に戻っ
た気分!三陸に行きたい!」

22期生:「改めて強い絆を感じました。」

31期生:「先生が4人も参加されていて、
懐かしい時間がすごせました。普通に仕
事していると、なかなか会話する事のの

ない年齢の方々とお話できて楽しかった
です。」

31期生:「卒業以来でお会いできた先生
方もいらつしゃってとの楽しかったで
す。三陸の話や、相模の話など色々お聞
きでき、とても楽しかったです。」

31期生:「色んな年代の人が集まったの
親睦会。水産」という共通の話で毎回
盛り上がりすぎて楽しいです。」

他にも、「色々な年代の方々と交流が
できて楽しかった。」「三陸の話は懐かし
い!」昔、楽しかった事が思い出され
て良かった。」などの感想をお聞きしま
した。また、「みんなで三陸に行きたい」
とのお声を多数いただき、実現出来たら
いいなと思っていました。

8年ぶりに参加された方がおられた
り、仙台から参加された方がおられたり
と、継続することの大切さを実感しまし
た。

「また参加した
い」とのお声を
多く頂き、次も
益々良い会にし
ていきたいと幹
事一同思ってお
りますので、ぜ
ひぜひご参加下
さいますようお
願ひいたします。



関西地区親睦会参加の皆さん

三水会北海道地区懇親会に参加して

海洋生命科学科2020年3月卒

山内 創

三水会北海道地区懇親会は今年の2月
15日に寒さ厳しい札幌市内で行われ、道
内各地から参加の先輩方との楽しい時間
を過ごしました。北海道に来て以来開催
のたびにお誘いを頂いてはいたものの私

の住む北見市から札幌市までは車で約4
時間、広い北海道の冬の移動に躊躇し講
師としてお呼びいただいた今回が初めて
の参加となりました。講演では水産学
部の諸先輩方を差し置いて魚の話をする
わけにはいきませんが、水族館のリ
ニューアルと現在の取り組みについてお
話させていただきました。後述しますが
1978年の開館以来年間2万人程度の
入館者数で推移しておりました当館が、
2012年に現在大学の学芸員養成課程
で講師もしているらつしゃいます中村元水
族館プロデューサーの手により生まれ
変わり初年度約30万人、現在でも年間
約10万人の方にお越しいただける施設
になったことと、「いただきますの水族
館」というテーマで書籍の出版や館内の
解説、イベントなどを行い、我々人間を
含めた生物の食う食われるの関係を感じ
てもらおうという取り組みについてお話
させていただきました。その後の懇親会
では諸先輩方よりご提供の超豪華景品が
当たるビンゴ大会や私の学生時代の指導
教官でもあります朝日田卓教授より三陸
町のアマモ場や魚類の現状についてお話
をいただき、非常に充実した時間を過ご
すことができました。ちなみに私は、は
こだてワインの飲み比べセットを頂きま
した。ありがとうございます。二次会へ
と移動する頃には札幌の街は大雪に見舞
われあたりが真っ白に染まる中大いに飲
み話し、三陸が結んでくれる先輩方との
繋がりを実感する夜となりました。三陸
での暮らしは先輩方の当時も私の当時も
世間の常識から外れた素晴らしい体験で
あったことも実感していました。

さて当館は先程も書かせていただいた
とおり1978年に山の水族館・郷土館
としてオープンし、2012年に中村元
氏監修の下全面建て替えリニューアルを
行い北の大地の水族館として生まれ変
わった淡水生物を展示する水族館です。



冬には凍った川の下の様子が見られる

き来も少ない状態が続いており、新しい生活様式や接触を避ける行動そのものが従来までの観光業や旅行業に直接影響を及ぼし、まさに変革を迫ら

旧館時代には同じ形同じ大きさの水槽に魚だけが入っている施設でしたが、新館では日本初の滝つぼを下から見上げる水槽や冬には凍った川の下で泳ぐ魚が見られる水槽など、北海道の川や湖の水中景色を再現し、水中感や浮遊感にこだわった展示に変えることによりこれまで2万人以下だった入館者数はリニューアル直後ではおよそ30万人、8年が経過した現在でも年間約10万人のお客様にご来館いただいています。また日本最大級の淡水魚イトウの保護・啓発活動にも力を入れており、毎年1月10日をイトウの日と制定しイベントを実施するなどイトウにこだわった展示をしています。

本年は皆様もご存知の通り新型コロナウイルスが猛威を奮っており、当地北見市では早い段階でクラスターの発生地となったことも影響しおよそ2ヶ月の間臨時休館を余儀なくされ、緊急事態宣言解除後の現在もインバウンドは当然のことながら航空便を中心に本州とは行



滝つぼの下に集まる魚の様子を観察できる



日本最大級の淡水魚イトウ

ださいます柳澤さんはじめ皆様大変ありがとうございました。お読みの皆様も北海道北見市へお越しの際はぜひお立ち寄りいただけます。幸いです。

最後になりましたが講師にお誘いいただき、柳澤さんはじめ皆様大変ありがとうございました。お読みの皆様も北海道北見市へお越しの際はぜひお立ち寄りいただけます。幸いです。

れていると実感していますが、どのおみちご来館いただくという直接的な行動が伴う業態ですので、安全を確保した上でコミュニケーションを加速させて参りたいと考えております。臨時休館中にはふるさと納税の返礼品として私が館内を案内するオンライン水族館やSNSを通じて館内の様子をライブ中継したりもしていました。最近では館内に「館長が出てくるボタン」というIoTボタンを設置し、好評をいただいています。これはボタンを押すとインターネットを通じて私のスマートフォンに通知が来るということになります。水族館で職員の話が聞きたいと思つたことのある方も少なくないかと思えます。また実は私達職員もお客様とお話したいと思つています。ですがお互いになかなかタイミングが合わず話せないということが多く、館内でのコミュニケーションを増やしお互いにとって良い時間を増やす事を目的としています。既に多くの方に押し付けています。既に多くの方に押し付けています。館内のコミュニケーションに役買つている他、実はネットメディアや新聞ラジオでも多数取り上げていただきボタン目当てでご来館されるお客様もおみえで来館者増にも効果を発揮しております。今後皆様にも喜んでいただける水族館づくりに邁進してまいります。

“ 掲 示 板 ”

【訃報】

北里大学名誉教授・元北里大学水産学部学部長 児玉正昭先生が令和2年8月30日御逝去されました。享年76歳 謹んでご冥福を、お祈りいたします。

■ 三水会事務局からのお知らせ

新型コロナウイルス感染症の影響により、同窓会の主要な活動である会員相互の交流会や親睦会など、集会予定はあってもなかなか開催には厳しい現状です。

三水会では毎年度、会員の集会について助成金を交付しています。主なものは次の2制度になります。

1. 三水会地区親睦会助成

北海道地区、関西地区、九州地区等、これら地区在住会員を主な対象とする親睦会に、一団体年一回20万円を交付します。

2. 三水会同期会等助成

研究室OB会、クラブOB会、他同期会等、会員10名以上の集会に3万円を上限に、一団体年1回交付します。

*詳細につきましては三水会ホームページ>三水会について>会則・助成金申請をご覧ください。また、E-mailや電話でもお問い合わせください。

編集後記

新型コロナウイルスによる自粛生活で会員のみなさまの多くが色々な制約やご苦勞をされていることと思います。今年度は7期生以降の親睦会などいくつかのイベントの企画が予定されていましたが、三水会定期総会をはじめすべての企画や理事会が開催を断念することとなりました。大学においてもリモート講義という卒業生にとっては想定不可能な大学運営がなされているようです。

今は来年度に向けて、このコロナ禍の時代に即した三水会の在り方を模索する時期かと思っております。会員の皆様も健康に十分留意して、良いアイデアがあればぜひ三水会に情報をいただければと思います。